

門真市市民公益活動支援・協働指針策定委員会

第1回委員会 議事要旨

場 所：門真市役所別館3階第3会議室

日 時：平成20年8月21日（木） 午前10時～12時

出席者：委員会委員（委員：あいうえお順）

委員長 市原昌亮（市民生活部次長） 副委員長 下治正和（総合政策部次長）

委 員 入江充博（代理・生涯学習課長） 清水広大（福祉推進部次長） 白神
隆夫（都市建設部次長） 西 政道（総務部次長） 野口耕治（環境事
業部次長） 深野温敬（健康福祉部管理監兼次長）

事務局：門真市市民生活部

野口管理監

地域振興課 柴田課長 脊戸課長補佐 小阪係員

馬場（まちづくりコンサルタント）

1. 開会（事務局）

2. 議 事

挨拶及び委員会設置趣旨等の説明（委員長）

検討のための参考資料の説明（事務局）

<意見の概要>

・この委員会では、

公益活動支援及び協働の必要性や公益活動支援や協働の促進による効果の想定など、
公益活動支援及び協働の目的等

公益活動支援及び協働の基本ルールなど、公益活動支援及び協働の基本原則

協働パートナーや協働の領域の設定、協働が有効な事業、公益活動団体やNPOな
ど協働するパートナーの現状、門真市の実情を踏まえた協働の方向性など、本市にお
ける公益活動支援及び協働のあり方

情報共有・相互理解の推進や協働の“場”づくり、きっかけづくり公益活動等市民
活動活性化のサポート方策、庁内体制、具体的な推進体制など、公益活動支援及び協
働のための環境づくり・推進体制

などの検討が必要である。（委員長）

・懇話会が設置されているが、懇話会の位置づけなどについて知りたい。

・この委員会で検討を行う指針策定に向けて、NPO法人や公募市民、学識経験者で構成
する懇話会において、市民側の提言を検討していただき、その提言を踏まえ、指針の策

定をしていただけないかと考えている。なお、懇話会は7月～9月にかけて5回にわたり提言を検討していただく予定にしている。(事務局)

- ・本市では、NPO法人の数が急激に増加しているが、どのような分野の活動の団体が増えてきているのか。(委員)
- ・福祉分野が多いが、環境やIT講習、子どもへの教育などの教育分野、スポーツ関係、文化財の修復など、多様な分野のNPO法人が立ち上がってきている。次回の委員会で、本市のNPO法人の詳細が分かる資料を配付しようと考えている。(事務局)
- ・アドプト制度については、府道で実施されている他、本市においても既に本市が管理する道路で実施している。(委員長)
- ・アドプト制度は、一つの道路で多様な団体が協定を結び実施しているケースもあり、清掃道具や保険などについて行政が支援している例が多い。(事務局)

<現在実施している市民参加や協働の例について>

- ・教育委員会では、市民プラザの総合管理を業者と委託契約を行っているが、その中でも、木の剪定や花の植栽についてはNPOとの委託契約を行っている。また、パソコンに興味がある方が同好会から立ち上げられたNPOに市内の方を対象としたパソコン教室を市の事業として委託契約をしている。学校を退職された先生を中心に、土曜日の午前中、活動センターで子どもに勉強を教える「門真っ子」(NPO)への場所の提供などがあげられる。(委員)
- ・都市建設部では、住宅の耐震改修に関する市民講座を行っているが、さらに、市民講座などを通じて、市民の方と接しながらコミュニケーションを図っていく必要があると考えている。市内には災害時などに障害となる狭隘な私道が多いが、これらの道の整備などについて市民の協力が必要であり、啓発等をする機会を得ながら、話し合いなどを進めていきたい。砂子水路の清掃についても市民ボランティア団体が中心となって行われているが、部としてもできるかぎり協力をしていきたいと考えている。(委員)
- ・総務部では、補助団体としては消防団や自治会や企業を中心とした自主防災組織があげられる。(委員)
- ・健康福祉部では、地域福祉は社会福祉協議会が行っているが、地域に関連するものでは、15校区において校区福祉委員会を設置し、地域の高齢者の見守りなど地域に根付いた活動を行っている小地域ネットワークを府(予算削減対象になっている)と市から補助している。また、府の予算全廃対象となっているが、地域組織の立ち上げなどを担っているコミュニティソーシャルワークやボランティアセンターや講習会の実施などについて市の予算を確保し、補助を行っている。また、社会福祉協議会で地域福祉計画を策定し、それをもとに横断的な活動がなされている。この他、献血推進協議会には、献血活動の際に応援などにきてもらっている。今年から再開したエイフボタタリネットワークについては、健診や啓発の手伝いなど公衆衛生面の活動を担っていただき、報奨金等を予

算化している。この他、国から委嘱され、准公務員的ではあるが、府の交付金や市から助成金を出している民生委員、児童委員がある。助成金を出しているものは、清掃等をお願いしている遺族会がある。日赤、共同募金会などにも協力を頂いている。

- ・福祉推進部では、月1回虐待などに対する相談や子どもを遊ばせるなどの事業を行っているが、門真こどもサポーターというボランティア組織にきてもらい手伝ってもらっている。また、昨年5月に乳幼児の親子が自由にきていただき、交流する「なかよし広場」という市の事業を立ち上げ、有償ボランティアを募集した。他市では、結構ボランティアで行われていると聞いたが、本市では一人応募いただき、その後も募集したが、ボランティアが集まらず、応募された一人もやめられ、現在は市の非常勤職員等で実施している。(委員)
- ・結構楽しく無償ボランティアで行っている子育て支援グループもある。なぜ、ボランティアが集まらないのかといった点も考える必要があるのではないかと思う。(委員)
- ・本日は、環境事業部は欠席であるが、アドプトロードや環境の啓発などを担うリサイクルプラザなど、NPO法人が実施しているものがある。
- ・今報告のあった各部署で行われています市民といっしょに行われていることが、“市民参加のはしご”のどの段階にあるのか、また、“市民参加”なのか、“市民協働”なのか、“市民活動の支援”なのかといったことも、今後、協働を考えていくうえで、整理が必要になるかと思う。(委員長)
- ・高度経済成長期等において公主導で立ち上げられた組織で現存するものもたくさんあるが、これら組織の意義も考え、NPO法人化するなどにより発展、自立させていくことも考えていく必要があるのではないかと思う。(委員)
- ・市も自治会等で何か行われる時には出向いて行って、直接話し合う場を持つなど話し合う機会を積極的に持つことが重要ではないかと思う。また、子どもを町中で見かけないようになってきている。協働に繋がるかどかは別であるが、市役所に子どもの作品を展示し、子どもを褒めるなど、子どもの自信に繋がるようなことをすることも必要ではないかと思う。(委員)
- ・本市も外国籍市民も増加してきており、多文化共生に取り組むことが重要だと思うが、この取り組みは行政主導では難しく、これこそが協働で取り組むべき課題ではないかと考えている。公主導で古くに立ち上げられた組織も世代交代期にきており、世代交代を活かし、活性化を図ることが考えられる。(事務局)
- ・他市では、公主導で立ち上げられた組織をNPO法人化し、新規事業を取り入れるなどにより、自立し、収益を上げている団体もある。本市においても、若い層の参加が進めば、活性化・自立していくことも考えられるが、行政としても市民団体にアドバイスをするのも難しい状況にあり、世代交代や活性化がうまくいっていないのが実情である。市内のNPO法人では、退職前の技術や技を活かし、門真のまちづくりに貢献している団体もあるが、このような市民もたくさんおられるのではないかと思う。このような人

にボランティア活動をしてもらうためには、市からの働きかけが大切ではないかと思う。

(委員)

- ・ 団塊の世代でボランティア活動を考えている人も多いと思う。このような団塊の世代の方をボランティア活動に参加していただくしかけや仕組みが重要ではないかと思う。(委員)
- ・ 組織の若返りの必要性や団塊の世代などへのボランティア活動参加の促しなど、行政が直接的に言うよりも、同じ立場の市民が市民に声をかけることによって効果が得られる場合が多い。同じ立場の市民が市民に声をかけるしかけや仕組みが必要ではないかと思う。他市の事例であるが、行政が開催した学習機会を通じて様々な繋がりを創り、そこからさらに横や縦の繋がりが広がっている。そのようなしかけの事例も重要な参考になると思う。(事務局)
- ・ 次回は、9月1日(月)午後2時から第2会議室において開催する。(事務局)